

目指す学校像	安心・安全・信頼を基礎とする地域と連携した潤いある教育活動を通して、生徒・保護者・教職員が共に充実感享受し、落ち着きと豊かさを実感できる学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>ICTの有効活用及び指導法の工夫改善を通し、探究的な学びの深化を図る教育活動を実践する。</li> <li>生命と人権尊重を重視し、自主的な活動を中心とした体験活動を通して、自己肯定感を高める。</li> <li>保護者・地域と理念を共有し、連携した教育活動を推進する。</li> <li>組織的対応と機動力がある職員組織を構築する。</li> </ol>
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全国学力学習状況調査では全国平均正答率は上回っているが、市学習状況調査と合わせ、市平均は昨年度比較で1～2ポイント差が開いた。</li> <li>○学校評価生徒アンケート「授業内容の理解」の肯定的回答は91.7%である。</li> <li>○学校評価教職員アンケート「授業の約束に沿った授業の実施」の肯定的回答は100%だが、「十分実施」になると29%となる。</li> <li>○教員のICTに関する研修が行われており、また、授業も実践されている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の学力が二極化されており、下位層の基礎学力の定着が必要である。</li> <li>○家庭学習を含め、学習方法の指導が必要である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別最適な学びの推進に向けたICT機器の活用</li> <li>・探究的な学びを実施するための指導方法の工夫改善</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「学びの指標」の結果をもとに、指導方法や授業内容等を検討し、授業改善を行う。</li> <li>②スクールダッシュボード等を活用し、生徒個々の能力を把握するとともに、個別学習の充実を図るため、スタディサプリ等を授業や家庭学習等に利用する。</li> <li>①授業方法を検討し、協働的な場面を多く設定する。</li> <li>②自己表現力を向上させるため、授業や委員会活動において学校図書館利用を増加させる。</li> <li>③防災教育とSTEAMS TIMEを連携させた授業を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①スクールダッシュボードを活用し、個々の能力を把握したか。また、スタディサプリ等を活用して授業や家庭学習を実施したか。</li> <li>②教職員評価「教材・教具(タブレット含)の効果的な活用」ができたか。</li> <li>③生徒評価「予習や復習の取組」が昨年度より上回ったか。</li> <li>①教職員評価「生徒の実態に合わせた授業・指導法の改善」ができたか。</li> <li>②学校図書館利用回数が昨年度より増加したか。</li> <li>③STEAMS TIMEが計画通りに進められたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業中や宿題等においてスタディサプリやCanva、Padlet、Teamsなどを活用する職員が増加したことで、ICT機器の使用意識が高まり、肯定的評価も95%を越えた。</li> <li>②ICTを活用し、生徒個々が理解しやすい授業に取り組み、生徒の学習への意欲も向上した。予習・復習の取組については、特に1・3年生においては大きく増加した。</li> <li>①各教科とも生徒の活動を重視した取組を実施するなど、生徒の理解力向上に向けて改善を行った。教職員評価でも、肯定的評価が95%以上となった。</li> <li>②国語科を中心に学校図書館の利用を意識的に増やすとともに、図書委員会における活動にも工夫を加え、利用数も増加した。</li> </ol>	A	<ol style="list-style-type: none"> <li>①今年度はエバンジェリストを中心に取り組んだが、今後、実践事例を各教科等へ情報共有し、全職員がICTの活用について率先して取り組む姿勢をつけることが課題である。</li> <li>②ICTの活用ばかりに意識が向かないよう、有効的な活用について理解していく必要がある。</li> <li>①各教科において、自由進度学習を含めた個別最適な学習や協働的な学習について、他校の実践例を参考に取組んでいく必要がある。</li> <li>②学校研究課題である防災教育と関連させたSTEAMS教育を教科横断的に実践していく。</li> </ol>	<p>学校運営協議会による評価</p> <p>実施日令和7年2月13日</p> <p>学校運営協議会からの意見・要望・評価等</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教員のICT活用意識が高まったことで今後さらに生徒の学習意欲や学力の向上に期待が持てる。一方ICTが有効かをよく考え、ICTの活用ばかりに意識が向かないよう取り組んでほしい。読書習慣や紙ベース(文字を書く)の学びも大切にしてほしい。</li> <li>②学力の二極化も課題であり、ボトムアップを望む。ただし、家庭からの協力も必要。</li> <li>③防災教育とSTEAMS教育に期待し、継続した学びにつながることを期待する。</li> </ol>
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価生徒アンケートの学校生活充実度に関する項目の肯定的回答はほとんどの項目で90%を越えているが、心に不安を抱える生徒もおり定期的・組織的に相談や支援が求められる。</li> <li>○学校生活全体において「時間を守る」「清掃に一生懸命取り組む」など、基本的な生活習慣は身につけている。</li> <li>○学校評価生徒アンケート「先生は親身に相談に応じる」の肯定的回答は96%であり、個々に対応することができている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○心と生活のアンケートから、精神的に不安を抱えている生徒も多く、自己肯定感を高める活動を推進していく必要がある。</li> <li>○組織体制を強化し、積極的な生徒指導・教育相談による生徒の心の成長を促す必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒1人ひとりへのきめ細やかな生徒支援・相談体制の充実</li> <li>・生徒の自己肯定感を高める教育活動の工夫</li> <li>・安全で健康な生活を実践できる生徒の育成</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の些細な情報でも耳を傾け、迅速な対応をする。また、積極的な生徒指導・教育相談を実施する。</li> <li>②報告・連絡・相談・見届けを徹底する体制を強化し、各機関との連携を含め、組織的に対応する。</li> <li>③生徒自らが主体となる生徒会活動や行事等、自己肯定感が高まる活動をさらに設定する。</li> <li>①安全意識や防犯・防災意識を高めるため、関係機関・団体等と連携して「生命を学ぶ」授業等を実施する。</li> <li>②心を潤す4つの言葉を自ら伝えることができるよう、心の健康を育成する機会を増加する。</li> <li>③生徒の校内生活の安全確保を最優先した備品等の設置等を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒・保護者評価「先生方は生徒の悩みに親身になって相談に応じる」が昨年度より増加したか。</li> <li>②教職員評価「報告・連絡・相談の体制ができているか」が昨年度より増加したか。</li> <li>③生徒会朝礼等を活用し、生徒が発表等主体的に活動する場面を多く設定したか。</li> <li>①生徒が普段から安全意識や防犯・防災に対する意識を持って行動している様子が見られるか</li> <li>②生徒があいさつ運動に積極的に参加し、生徒評価「心を潤す言葉を伝えられたか」が95%以上となったか</li> <li>③安全点検等、修繕・改善箇所に対して迅速に対応できたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各教員が意識的に生徒との対話活動を増やしたことで、関係性の構築ができた。教職員評価でも、平均評価が昨年度より0.12ポイント増加した。また、生徒評価についても肯定的評価が94.8%と高い水準となった。</li> <li>②生徒会朝礼だけではなく、学級・学年・学校全体で発表・活動する場面を多く設定したことで、生徒が意欲的・主体的に取り組むことができた。</li> <li>①防災に関する講演会を3回実施し、生徒の防災への意識が向上した。また、指導する教員の意識も向上し、指導方法にも工夫が見られた。</li> <li>②生徒・教員が毎朝校門であいさつ運動を行ったり、学校生活の中で教員が声掛けをしたりするなど、よい雰囲気を作り出している。生徒評価も90%を越える数値となった。</li> </ol>	A	<ol style="list-style-type: none"> <li>①業務改善によって生み出された時間を生徒との対話活動に充てられるようにしていく。</li> <li>②学級で取り組んでいる発表や生徒の活動は、他の学級でも実践するなど、情報・活動の共有化を推進していく。また、本年度実施した活動をブラッシュアップし、生徒の自己肯定感がより高まるようにしていく。</li> <li>①講演会が防災教育のよい意識付けになったため、次年度はこれらを活かした取組を計画的に実践していく必要がある。</li> <li>②あいさつ運動においては、小・中合同も含め、より活発になるような取組や手段を考えていくことが大切である。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①忙しい現代の子どもにとって先生に話を聞いてもらえることが心の安定につながっている。また、生徒の自己肯定感が高まっていることにつながっている。</li> <li>②防災に関する講演会を多く実施し、意識が向上したことは自らの身を守る上で、さらに地域を守る存在として期待が持てる。</li> <li>③生徒向けに様々な苦勞を体験したり工夫を行ったりしてきた方の話を聞く機会を増やしてはどうか。相手の気持ちや場の雰囲気を理解できるように成長を促してほしい。</li> </ol>
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営協議会の協議に基づき、地域・学校が連携し、「あいさつが自分からできる子ども」の育成を目指すことが共有されている。</li> <li>○学校での生徒の活動の様子について、プリント配付等にて実施したが、速やかな情報提供できなかった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒と地域の方との触れ合いの場を増やし、地域との関わりを強め、地域に貢献できる生徒を育成する必要がある。</li> <li>○学校の情報を速やかに地域・保護者等に伝達し、連携体制をさらに強化していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の地域所属意識を高める地域連携行事の推進</li> <li>・小・中連携や地域連携、学校での取組等についての積極的な情報発信</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①地域に貢献する意識を高めるため、また、地域の方と触れ合う機会を作るため、清掃ボランティア等、地域と連携した取組を設定、充実させる。</li> <li>②学校課題研究「防災教育」において、生徒が地域の一員としての意識を持つ取組を、地域と相談・計画し、連携して実践する。</li> <li>①学校公開など、学校の活動を地域へ公開する機会を増やし、教育活動を保護者・地域と情報共有する。</li> <li>②小・中による情報共有・研修等、児童生徒理解についての共通課題に向けた取組を実施する。</li> <li>③学校だよりやHP等で生徒の活動の様子を紹介し、情報を広く発信する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①地域と連携したボランティア活動等、昨年度以上に取組み、充実したものとなったか。</li> <li>②来年度の発表に向けて学校運営協議会等と連携を図り、生徒の取組について計画を立てることができたか。</li> <li>①保護者評価「学校に関する情報を伝えている」が昨年度より増加したか。</li> <li>②小・中の情報共有が図られ、共通した取組が実施されたか。</li> <li>③HPの更新回数が月2回以上となっているか。また、アクセス数が昨年度より増加したか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒会主催の緑化ボランティアを2回実施し、回を追って参加者も増加した。また、地域の方にも参加いただき、交流も深めることができた。</li> <li>②学校運営協議会の熟議において、防災教育の具体的方策を提案していただくなど、来年度の計画に向けて、下地を作ることができた。今後、具体的に計画を立てていく。</li> <li>①学校だよりや学校HPで生徒の様子を数多く掲載するとともに、学期に1回学校公開を実施し、学校の様子を情報発信した。</li> <li>②学校HPについては、今年度より月2回のペースで更新し、「学校活動」のアクセス数は各項目を合計すると約11,000件となった。しかし、まだ認知度も少なく、保護者学校評価の肯定的評価は減少した。</li> </ol>	A	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒学校評価「ボランティア等に参加しているか」(本年度より実施)に対する肯定的評価が、30%と低く、今後、意識をさらに向上させていく必要がある。</li> <li>②学校運営協議会の熟議でいただいた意見が実施できるよう、学校全体でも検証していく。</li> <li>①生徒の活動の様子をより深く情報発信できるよう新たな手段を構築する必要がある。</li> <li>②学校HPについては、広く認知していただけるよう広報活動を推進していく。また、更新速度を月3～4回にあげていく。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①小・中合同の強みを活かし、いろいろな活動を家庭・学校・地域で協働していきたい。今はあまり感じなくても、数年後に協働した良い成果が地域に返ってくるようなサイクルに期待している。</li> <li>②緑化ボランティアはよい取組だと思うが、学校評価の結果から、地域等への活動参加は不十分。発達段階からも難しいが、学校運営協議会とタイアップし、地域とのつながりを構築していくとよい。</li> <li>③学校HPなどの情報提供は大切なことであり、無理のない範囲でお願いしたい。</li> </ol>
4	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導や部活動など、指導に積極的に関わる教職員が多く、意識も高い。</li> <li>○業務に意欲的に取り組む反面、教職員の体調管理が心配である。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○課題に対して組織的かつ迅速に対応し、個々の負担の軽減を図るとともに学校全体で情報共有ができる組織の構築が必要である。</li> <li>○働きやすい職場環境構築のため、校務分掌等、組織の見直しをする必要がある。</li> <li>○教員研修に参加する時間を確保する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の協力体制の強化と働きやすい職場環境の改善及び指導力の向上</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①教員間における協力体制をさらに強化するとともに、若手教員育成の環境を整える。</li> <li>②校務分掌が特定の教員に負担過多にならないよう、業務内容を精選する。</li> <li>③教員一人ひとりが、勤務時間外在校時間だけにとらわれず、効率化を考え、必要な業務を精選する。</li> <li>④キャリアナビ等を活用し、指導力向上に向けた研修に取り組む環境を整える。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「チーム八王子」を意識し、協力体制等を向上させる研修を実施したか。</li> <li>②業務を適材適所に割り振り、来年度に向けた校務分掌が設定できたか。</li> <li>③職員が業務効率化を意識して時間外在校時間を減少させ、健康を維持できたか。</li> <li>④振り返りシートを活用・自己理解して研修等に積極的に参加できたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各教員がICTを授業や業務に取り入れ、業務量の削減や効率化に取り組んだ。その結果、勤務時間外在校時間の平均が昨年度と比較してやや減少した。</li> <li>②生徒指導や教育相談など、個々で対応することなく、複数人数や学年・学校全体で情報を共有し、組織として対応した。</li> <li>③業務負担についてはやや偏りが見られ、教職員学校評価も肯定的評価の数値が減少した。</li> <li>④教職員研修については、個々が研修に参加したり、動画や書籍等で情報を収集した。</li> </ol>	A	<ol style="list-style-type: none"> <li>①業務改善をさらに推進し、各教員の勤務時間外在校時間をさらに減少させる。また、各個人や校内研修の時間に充てていく。</li> <li>②来年度以降、校務分掌を精選し、各担当の負担が偏らないよう考慮したものとする。</li> <li>③生徒指導・教育相談の各委員会において、さらに組織的に対応できるよう、情報共有を密にし、意思を統一して対応できるようにする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①組織が人を育て、人が組織を高める、八王子中の更なる発展が楽しみ。</li> <li>②教員のなり手が減少する中、ブラック職場と言われないようあらゆる場面で業務改善を図ってほしい。心身ともに健康で働きやすい職場環境を。</li> <li>③やりがいのあるとても大切な職種である。もっとも保護者・生徒からも評価され、感謝される場を設けるべき。</li> </ol>